



新たな学際領域に 切り込む 意欲的な学生に期待

姫路獨協大学 学長 奥村勝彦

取材文／堀水潤一 撮影／中岡邦夫

【学長プロフィール】1943年生まれ。京都大学薬学部卒業。京都大学大学院薬学研究科修士課程修了。京都大学薬学部助手、広島大学助教授、京都大学助教授・医学部附属病院副薬劑部長、神戸大学教授・医学部附属病院薬学部長、姫路獨協大学薬学部教授、同薬学部長などを経て、2009年より現職。

【大学プロフィール】1987年開学。現在は外国語学部(外国語学科)、法学部(法律学科)、経済情報学部(経済情報学科)、医療保健学部(理学療法学科、作業療法学科、言語聴覚療法学科、こども保健学科、臨床工学科)、薬学部(医療薬学科)の5学部体制。

本学は、設立に際して姫路市から多額の援助を受け1987年に誕生した公私協力型の大学です。獨協学園としては120年以上の歴史を有し、根づきのしっかりした大学ともいえます。

設立当初は外国語学部、法学部、経済情報学部という学部構成でしたが、06年に医療保健学部、07年に薬学部という医療系の学部を新設。文理5学部による総合大学として新たなスタートをきったところです。

薬学部出身である私が感じるのは、医療系の学部にとって、語学・法学・経済学は頼るべき学問分野であるということです。語学でいえば、医療現場が国際化するうえで外国人患者とのコミュニケーションは欠かせません。法学でいえば、医療事故、医療訴訟の備えとしての法律知識、あるいは医療倫理の問題があります。患者の権利やプライバシーの保護などは法学の専門領域といえるでしょう。また、経済学でいえば、医療保険制度が揺らぐなか、いかに経営効率をあげるかということは避けて通れない課題です。わが国独特の「医療経済」は今後、大いに注目される分野だといえます。

こうした医療と各分野の境界は、その重要性にも関わらず、手つかずの部分

が少なくありません。そうした学際領域に切り込むことが可能なのは、本学のような双方をカバーした大学です。以前より、異なる目標や専門を持つ学生、教員間の交流は学内を活性化してきましたが、それを一層押し進めます。全学共通科目の再検討や文理をまたぐ活発なコミュニケーション、チームワークづくりも積極的に行います。

医療にしろ経済にしろ、それぞれの根幹部分もまだ学んでいない高校生に、いきなり境界の話をしてピンとこないかもしれません。けれど、二つ言えるのは、ある程度確立された分野と異なり、その周辺部に光をあて、学問の柱を立てていくという仕事は、誰もができるわけではなく、やりがいに溢れているということなのです。

その際必要となるのが好奇心です。好奇心が強いということは、あらゆることに意欲的になれるということ。多様な学びのなかで、何が自分に合っているのかを見つけてください。そうすれば必ずと将来のポジションもつかめるでしょう。学問の探究にとどまらず、本学が力を注ぐ国際交流や地域貢献、人間関係や恋愛、さまざまなことに好奇心を持ち、意欲的な学生生活を送ってほしいと思います。